

2017年2月06日

建築研究開発コンソーシアム  
正会員・準会員連絡担当者 各位

建築研究開発コンソーシアム（CBRD）  
インキュベーション委員会  
コラボレーション・ミーティング小委員会

## 「コラボレーション・ミーティングー建築構造分野（第2回）ー」開催のお知らせ

謹啓、時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より、建築研究開発コンソーシアムの運営並びに事業に関し、ひとかたならぬご支援、ご協力を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り、「2016年度コラボレーション・ミーティングー建築構造分野（第2回）ー」を開催させて頂くこととなりました。ご関係者各位へのご案内を宜しくお願い申し上げます

謹白

### 記

【日時】2017年3月29日（水） 14:00-17:00

【場所】晴海トリトンスクエア オフィスタワー Z棟4階 フォーラム室

【参加資格】正会員、準会員で、建築構造その他の関連分野の研究開発に係わっている部門長、マネージャークラス。  
会員1企業・法人につき1名に限らせて頂きます。

\*以下の趣旨説明にあるように、今回は建築構造分野だけではなく、その他の関連分野の方々にも広く参加をお願いいたします。

【定員】20名（定員になり次第、申込み受付を終了させて頂きます。）

【参加費】無料

【申込み締切】2017年3月15日（水）

MAIL 返信先：lecture@conso.jp （コラボレーション・ミーティング担当宛）

件名：コラボレーション・ミーティング 建築構造分野

本文：社名、部署名、氏名、TEL、E-Mail、をお書き下さい。

応募時資料提出のご協力お願い：「資料1」へ話題提供可能なテーマについて記載したファイルを添付してお申込み下さい。是非、検討の場の活性化から話題提供へのご協力をお願いいたします。

※申込み締切後、1週間ほどで【参加票】をメールにてご送付申し上げます。

万一、届かなかった場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせ下さい。

## 【コラボレーション・ミーティングの内容（予定）】

### ◆テーマ：継続使用性等の耐震性能に関する新たな性能表示手法の可能性を探る

昨年12月21日に開催した2016年度第1回コラボレーション・ミーティング「平成28年（2016年）熊本地震から何を学ぶか」においては、今後の研究会テーマに関して、地震入力の問題などのほか、機能継続を含むさまざまな耐震性能の評価・表示手法のあり方が話題となった。現行の住宅性能表示制度は、構造躯体の倒壊防止・損傷防止性能を、地震力（または壁量）の割増で等級表示することが基本となっており、その他の耐震性に関する項目としては、免震である旨の表示、液状化に関する情報があるが、それらは「性能」の水準を示す表示にはなっていない。

熊本地震の被害状況を見ても、実際に地震が起きた時に期待する建築物の耐震性能には、設備の機能維持を含めた継続使用性など、建築物の用途に応じて、さまざまな立場のユーザーによる、多様なニーズが存在する。そうした幅広いユーザーのニーズに応えるため、新たな耐震性能の表示手法の可能性を考えたい。

	内 容	時 間
1	建研からの趣旨説明、前回のコラボレーション・ミーティングの概要紹介 奥田泰雄氏〔(国研) 建築研究所 構造研究グループ長〕	14:00 ～ 14:15
2	話題提供及び意見交換（1） 「現行の住宅性能表示制度とその手法」 井上波彦氏〔(国研) 建築研究所 構造研究グループ 上席研究員〕	14:15 ～ 14:45
3	話題提供及び意見交換（2） 「ユーザーが理解しやすい耐震性能表示に向けた課題と近年の取り組み（建築研究所で実施した検討事例の報告）」 向井智久氏〔(国研) 建築研究所 構造研究グループ 主任研究員〕	14:45 ～ 15:20
	休憩	15:20 ～ 15:30
4	話題提供者からの発表並びに質疑応答 （*参加メンバーからの話題提供のお申し出があった場合） 総合意見交換	15:30 ～ 16:30
5	今後の進め方（研究会移行へのスケジュール等） アンケートの記入	16:30 ～17:00

□お問い合わせ先

コラボレーション・ミーティングに関するご質問等は下記にお願い申し上げます。

建築研究開発コンソーシアム事務局（略称：CONSO 事務局）

担当：勝部、中村

〒104-6204 東京都中央区晴海 1-8-12 晴海トリトンスクエア オフィスタワーZ棟4階

TEL：03-6219-7127・FAX：03-5560-8022

E-mail：katsube.s@conso.jp

以上